

第3章 かわさき都市型コミュニティ中間報告フォーラム

平成20年4月から平成21年3月までの川崎市都市型コミュニティ検討委員会の8回の検討内容に基づき、川崎市のコミュニティ施策が今後どうあるべきかを現段階で中間報告書として取りまとめました。

その中間報告書の内容説明と、市民の皆さんから「川崎という都市のコミュニティ推進」のための検討課題についてご意見をいただくため、「かわさき都市型コミュニティ中間報告フォーラム」を平成21年7月4日に開催しました。

かわさき都市型コミュニティ中間報告
フォーラム開催

人と絆とコミュニティ

愛するまちに住み続けるための意見募集

大規模な住居系開発に伴う転入者や核家族化等に伴う若年世代家族の増加、少子高齢化の進展、ライフスタイル・価値観の多様化など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。

さらに地縁意識の希薄化や解決が困難な課題も増えてきており、町内会・自治会などの組織と、さまざまな活動を展開している市民活動団体等と連携や協働することで、より地域コミュニティの活性化を図ることができるものと考えています。

川崎市では平成20年度に「都市型コミュニティ検討委員会」を設置し、コミュニティの現状と施策、活動事例と連携の状況、課題などを検討し、中間報告書としてまとめました。

今回のフォーラムは、この中間報告書のご説明と、人材・資金・場・連携などコミュニティ活性化に向けての課題について、市民のみなさんからご意見をいただくワークショップ形式で開催します。みなさんぜひご参加ください。

【日 時】 平成21年7月4日(土)14:00~16:30 (受付は13:30~)

【会 場】 (財)かわさき市民活動センター 会議室 (案内地図裏面)
JR南武線・東急東横線・目黒線武蔵小杉駅 徒歩3分

【参加費】 無 料

【対 象】 地域コミュニティについて関心のある方、町内会・自治会関係者、市民活動団体関係者

【定 員】 当日先着50名 (事前の申し込みは必要ありません。)

○主 催 川崎市
○実 施 川崎市都市型コミュニティ検討委員会
○お問合せ 市民・子ども局 市民生活部 市民協働推進課
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2481 FAX 044-200-3912
E-mail 25simin@city.kawasaki.jp

【中間報告フォーラムの案内用チラシ】

● 当日のタイムスケジュール

14:00~15:00
主催者あいさつ
フォーラムの全体説明
都市型コミュニティ中間報告書の説明
グループ分け

15:00~16:10
グループごとによる意見交換と発表

16:10~16:30
まとめ

このフォーラムを実施する
「川崎市都市型コミュニティ検討委員会」
について

この委員会は、市民が地域の課題解決に取り組めるコミュニティの仕組づくりに向けた課題や必要な取り組み等を検討することにより、地域コミュニティの活性化を図ることを目的に、平成20年4月1日に発足しました。

委員は学識経験者、団体関係者及び公募市民の全12名で構成されています。

★ 中間報告書は、川崎市のホームページでご覧いただけます。
<http://www.city.kawasaki.jp/e-material/siseisiryou/info4144/index.html>

かわさき市民活動センター案内図

〒211-0004 川崎市中原区新丸子東 3-1100-12

この中間報告フォーラムは、7月4日(土)14時から、かわさき市民活動センターにおいて開催しました。当日は一般参加者25名を含む41名の参加がありました。

川崎という都市におけるコミュニティづくりを考えていきたい。絆や信頼関係を作るには、どのような方法があるのか、今日はぜひ皆さんのご意見をいただきたい。



次に、武藤委員長から都市型コミュニティ検討委員会委員を紹介しました。さらに、中間報告書第1章の検討の背景とこれまでの経過について説明しました。

かわさき都市型コミュニティ中間報告フォーラム 「人と絆とコミュニティ」 ～愛するまちにすみ続けるための意見募集～

日時 平成21年7月4日(土)
14時～16時30分
場所 かわさき市民活動センター
主催 川崎市役所
実施 川崎市都市型コミュニティ検討委員会

次 第

- 開会 (14:00～)
 - 1 主催者あいさつ
- 委員会からの「中間報告書」のご説明 (14:05～)
 - 1 検討の背景とこれまでの経過について
 - 2 コミュニティ活動事例に見る「連携」の状況について
 - 3 都市型コミュニティ推進の検討課題について
- 意見交換会 (14:55～)
 - 1 意見交換会の進め方について説明(グループ分け)
 - 2 意見交換
 - 3 各グループの発表
- 委員長コメントとフォーラムのまとめ (16:10～)
- 閉会 (16:30)

【当日の次第】

最初に太田市民・子ども局長から、主催者あいさつがありました。



犬塚副委員長からは第2章を中心に、具体的に7つの事例を紹介しながら、コミュニティ活動事例に見る「連携」の状況について説明しました。



そして谷本委員からコミュニティを支える仕組みとして、区域、場、人材、資金、連携・情報の5つの視点から、提案を行いました。

その後、参加者・委員が4つのグループに分かれ、委員が進行役となり、話し合いを行いました。各自がそこで出した自分の意見をはがき大の用紙に1項目ずつ書き出し、カードを作っていきます。内容の関連性を考えながらそのカードを模造紙に貼りつける作業も行いました。また、模造紙上のカードをグループごとに線でくくったり、題名をつけたり、グラフィックな工夫も行いました。





そして、グループごとに意見をまとめ、それぞれ発表しました。なお、主な意見は次のページのとおりです。



グループごとの主な意見

第1グループ

資金については小額のサポートで活性化されるので、ファンドを考えても良いのではないかと。場所については地域の中に、簡単に、すぐ行ける、使える場があればよい。空き店舗や企業が提供してくれる拠点も考えてはどうか。例えば新しい建物が出来るとき、そこに拠点となる場を作っていくのはどうだろうか、という意見が出ていた。区域については、テーマによって活動の区域は違うので柔軟でよい。人材はすでに地域にいるので、力を持つ人をどのように掘り出し、その人達が興味を持てる場をどう作るかが必要である。コーディネートができる人を地域の中で育てていく仕組みが、全体としての地域コミュニティの活性化につながっていくのではないかと。

第2グループ

連携という点では、課題について連携するのがやり易いのではないかと。新しい住民、さまざまな年代のつながり作りや、団体間のネットワーク作りが課題である。また資金については、役所では調達方法の分類が多過ぎてわかりにくい。助成金の情報をまとめてほしい。会合の場所については、若い人には町内会館は入りにくい。身近な地域に喫茶店のオーナーと連携して場を借りられないか。人材については若い人には、町内会はシニアが多く参加しにくい雰囲気がある。既に活動している地域のリーダーを支える仕組みが大切である。最後にまとめとして、活動の発信の仕組みが大切である。地域によって活動事例が違うので、活動事例を共有したい。

第3グループ

区域については固定するのがよいのかどうか、とはいえ助成もあるので考えないといけない。活動の場については、井戸端会議ができる場やコミュニティカフェのような場があればよい。どのような既存施設があり、どのような場が必要か棚卸をし、行政に申請する、ボランティア的提供者に発信するのも一つの考え方である。人材については、団塊の世代の活用が大きい。社会人大学・生涯大学等の活用や、市民館にかかわる市民グループとの協働も大切ではないかと。資金については、集まる資金の中で活動を組み立て継続していけばよい。企業からの助成金は不況になると絞るのであてにできない。コミュニケーションは基本的に一緒に遊ぶことなどが連携につながっていく。

第4グループ

テーマについてだが、都市型コミュニティは定義が必要である。我々が取組んでいないテーマとして、若い人はインターネットの中でコミュニティを作っているという提案があった。ネットのコミュニティを検討してほしい。エリアについては、テーマ、目的にあわせてエリアを柔軟に考えてもよいのではないかと。東京や横浜との連携をとったコミュニティも必要ではないかと。ネットワーク作りだが、入りたいと思っている人もいるが、なかなか人が集まってこない。活動する団体も活動を見直して、魅力ある活動をするのも大切ではないかと。

(個々の意見は第4章第3節に記載しています。)

最後に、武藤委員長からの「まとめ」でフォーラムを締めくくりました。



皆さんの意見を多くいただき、感想を述べたいと思います。中間報告を書くに当たって見過ごした点があり、感謝しています。そこを中心に話をしたいと思います。

「都市型の意味がよくわからない、定義をすべき」という意見はその通りです。定義を考えたいと思います。私は「川崎という都市におけるコミュニティ」と思っています。川崎には里山の風景を残したような場や、武蔵小杉のような高層ビルが立ち並んでいる雰囲気を持つ場があります。

区域の問題は「柔軟に考えてもよいのでは」というのは、私たちの意見と大体同じように思いました。「もう少し広い意味で共通のつながりができる地域があるのでは」という意見には、なるほどと思いました。

場は「もっと身近な場が必要」という意見がありました。また身近な町内会館などは若者が使いづらいという意見があり、「身近な場をどう充実させていくか」ということは、活動を支えるインフラの面で重要な側面を持っているということを再認識させていただきました。

人の問題では、「若者が参加しづらい」という指摘がありました。若者に魅力のある地域はどういうものでしょうか。私は、若者が年を取って戻るまで待とうと思っていましたが、早く来てもらわないと地域が続かないということがあり、中年くらいからがんばってもらう、地域に入ってもらい仕組みを考えていき、それが若者につながっていくと思います。それには、大学や企業との連携や地域の中で特技を持つ人をどう探し、そういう人を核にしなが趣味のサークルやコミュニティビジネスで広げて行くとかいろいろ考え方がありますが、どう連携するかを、地域ごとにいろいろなことを行っていくのだろうと思います。人が一番大切だと考えています。がんばっている人をどう支えるか、地域リーダーをどう支えるかも重要だと思いました。

最後はネットワークに関連して、新たにコミュニティを支えていく人材をどのようにネットワークに入っていたか、継続性という意味では重要だと思いました。

われわれが中間報告で触れていなかったご指摘を多々受けました。最終的な報告に向けて今日の皆様のご意見を踏まえ、中間報告を書き直して最終報告にしていきたいと思えます。今日は経験や知識、問題意識というところから多様なご指摘をいただき、感謝しています。委員一同を代表してお礼を申し述べたいと思います。ありがとうございました。